

# マツノザイセンチュウ(松くい虫)に対する抵抗性の強いアカマツ品種「播磨の緑」の品種登録

【背景・目的・成果】 県下の松くい虫激害林の中から抵抗性候補木を選抜し、そのうちの1品種がマツノザイセンチュウ接種検定で強度の抵抗性をもつことが確認できました。この品種の接ぎ木苗を試験地に植栽し、20年間を経過して他の品種は松くい虫によってほとんど枯れましたが、この品種は被害が認められないため、真の抵抗性として、品種登録を出願し、平成19年10月に認められました。

## 「播磨の緑」の育成経過



松くい虫激害林の中から無被害木を選抜(加西市)

無被害木から枝をとり、接ぎ木によりクローン苗を育成

20年にわたる栽培試験で、真の抵抗性が確認されたので品種登録を出願し、アカマツとしては全国で初めて平成19年10月に品種登録されました。



接種検定の結果、1品種に強度の抵抗性があった

接ぎ木苗にマツノザイセンチュウを接種検定

接ぎ木苗を試験地に植栽して、生育状況を調査

## 「播磨の緑」の品種特性

マツノザイセンチュウに強度の抵抗性  
樹皮、冬芽は赤褐色、針葉は柔らかく、典型的なアカマツの形態  
幹に曲がり少なく、断面は円形、樹冠は円錐形  
成長は中庸



【技術の活用】 松くい虫に対する抵抗性を受け継ぐために、親の遺伝子を完全に引き継ぐ接ぎ木苗木(クローン)で増殖し、ゴルフ場や公園などの修景・緑化用として普及します。なお、アカマツの品種登録は全国で初めてであり、本県のみではなく、広く他府県への普及も期待できます。